

0) タイトル：多様性の連続からの学び

1) COIL 授業の経験

第二次世界大戦についての授業で、アメリカの学生と電話をつなぎ意見交換をしました。日米関係史において重要で、様々な論点を含む出来事について日米双方の視点を織り交ぜ話し合いができ、とても有意義でした。グローバル化が進み、多様なアクターが複雑に関わりあって活動している現在、多様なバックグラウンドや視点を持つ人たちと交流することは非常に大きな意味を持ちます。テレビ電話という方法は、世界中の学生をつなげるための非常に画期的な方法だと感じました。COIL 型の授業を通して、議論がとても深まったのを覚えています。

2) 学生ワークショップの経験

“令和”という広いトピックについて、日米双方の学生が発表し、議論を行いました。日本人の学生は主に、国内における反応や、改元の意味について発表しました。一方で、アメリカ人の学生は、海外で令和に対してどのようなアクションがあったかまとめていました。中国系の学生は中国における反応を紹介してくれ、アメリカの多様性を感じた瞬間でした。国内における反応と海外のものを比較することで、お互いの内容を補完する形で、双方にとってとても新鮮で刺激的な議論が行われました。日本という枠にとらわれず、様々な意見や視点にふれる楽しさを改めて実感しました。複数の文化がまじりあうことで生まれるシナジーのようなものを感じました。



3) TP ワークショップの経験

日米の研究者の高度な議論を目の前で見ることができ、知的好奇心がそそられました。千差万別の角度から一つのテーマを分析している様子に圧倒されました。そして、TP ワークショップの場でも多様な価値観や視点を多くの人と共有することの重要性を感じました。その最たる例が、専門分野も全く異なる研究者の方々が、他の発表から得たものを自身の専門に当てはめて考察し、そのフィードバックを全体に求める様子でした。一つのフレームワークに固執するのではなく、分野横断的に物事を捉えることによる効果の大きさを肌で感じることができました。自分の専門を持ちつつ、他者の良い点から多く学べる人になりたいとも思いました。

4) その他の部分で印象的だったことなど

学生ワークショップで同世代のアメリカ人の学生と知り合い、彼らとの連絡が続いていることもありがたく思います。

5) 全体の総括（感想）

若いうちに色々な価値観にふれることの意義を大いに感じました。今夏から、派遣留学でニューヨークに行くので、積極的に自分の知らない世界に足を踏み入れてみようと思います。

